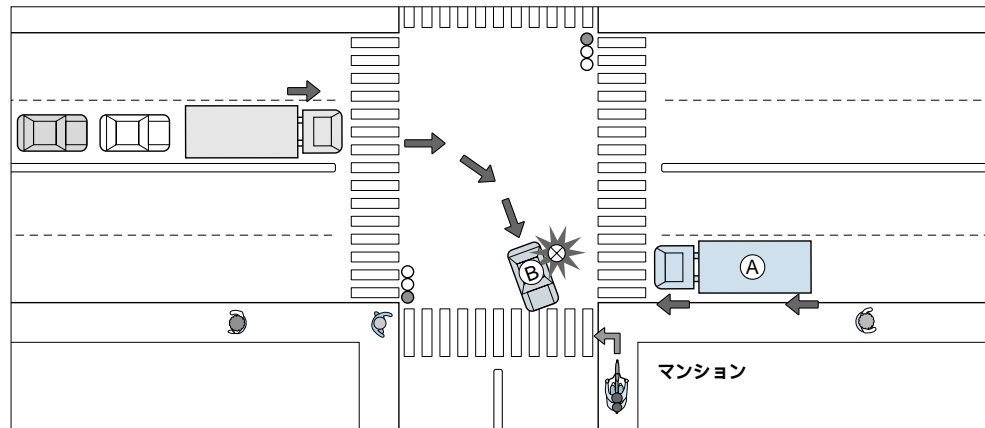


# 職場における交通安全指導

Part 67

事故事例に学ぶ  
34

## 交差点直進時に右折車と衝突



### 事故の概要

#### 発生状況

日 時：平成18年11月某日 午前8時頃  
天 候：曇り

#### 道路状況

交通頻繁な市街地の片側二車線道路の交差点

#### 事故の当事者

運転者A(2t保冷車): 23才、男性  
被害者B(普通乗用車): 46才、女性

#### 被害状況

A: 右足打撲  
B: 頸椎捻挫、腰部打撲等(全治2か月)

### 事故状況

Aは、入社後1か月が経過したばかりで、ベテランドライバーによる同乗指導の期間を終え、単独で運送業務に従事する初日であった。事故歴は無いがややマイカー運転の荒さが抜け切らないため、前日、同乗指導を担当したベテランドライバーから細かい指導を受けていた。

事故当日は、近くの倉庫から冷凍食品類を積み込み、県内数箇所のスーパー・コンビニ等に搬送する予定で同所を出発したが、約1キロ走行したところで事故を起こしたものである。

事故現場は、片側二車線と一車線が交わる市街地の交差点で、当時は、ラッシュ時間帯で通行車両や通勤・通学の横断者等で交通頻繁な状況であった。

Aは、単独で運送業務に携わる初日ということから、終始緊張し落ち着かない状態で二車線道路の左側車線を走行中であったが、同交差点付近に差し掛かった時、対向車線では右折待ちの車両がBの他数台停止していた。

Aは、交差点の信号が青であったことから減速することなく、対向車両の動向に注意しながら交差点に接近した。その時、Bは横断歩道を中断なく渡っていた歩行者等が見計らい右折を開始した。

Aは、自分の視界の中に横断歩行者等が見当たらなかったことから、Bの右折がスムーズに完了するものと思い漫然と走行していたところ、高校生風の男女が自転車に二人乗りし横断歩道に飛び込むように進入してきたことから、Bは、危険回避のため横断歩道の直前で急停止した。

Aは、Bが急停止したことに気付くのが遅れ、直前に至って慌ててブレーキを踏んだが間に合わず、Bの左側面に激突、車両を大破させBに重傷を負わせた。

この事故の直接の原因は、Aが減速しないで交差点に進入したこと、右折中のBの動静やその周辺を十分に注視しなかったことである。

### 安全指導

#### ゆとりのある運転

運転は、認知・判断・操作の3要素から成り立っています。しかし、この何れかにミスが生じた時に事故の危険が増すことになります。

この一連の運転行動を的確に行うためには、ドライバーが、平常心を保ちリラックスした状態で運転することが極めて肝要です。そのためには、何といても基本となるのは

- ・体調をベストに保つ
- ・時間に余裕を持つ
- ・気持ちにゆとりを持つ

ことです。

このことを毎日心掛け、しっかり習慣付けていくことです。この心掛けを忘れず継続していくうちに安全運転への大きな“力”となっていくのではないのでしょうか。

常にゆとりを持った運転を心掛けましょう。

#### 出発後間もない運転に注意

Aの場合、運行開始してから約1キロ走行した地点で事故を起こしました。

交通事故は運転開始後30分以内に多く発生しています。

出発後、間もない時間に事故が多発する要因は、まだドライバーの身体機能・判断機能等がフルに活動していない時間帯であるからだといわれています。

長時間運転の疲労等による注意力の低下にも十分な警戒が必要ですが、実際には運転開始後間もない時間に事故が多く発生している実態を認識し、運行開始時から注意を怠らないよう安全運転に努めましょう。

#### 危険を予測した運転

交差点は、交通事故が最も多く発生しており、

中でも、市街地で信号機のある交差点で重大事故の発生が顕著であり要注意です。

Aは交差点に進入する際、Bの右折がスムーズにいくものと思い込んでしまい、その動静に注意することなく交差点に進入し事故を起こしました。

交差点では、当該事故のように右左折する車両が事故の危険を回避するため、右左折の途中で急停止するケースがよくあります。

交差点において、このような事故の危険を回避するためには、「危険を予測した運転」が極めて重要です。

交差点を通過する際、ドライバーが安全確認に要する時間は、せいぜい1、2秒といわれています。

#### 「思い込み」に注意

ドライバーは、交差点において事故が多発していることを踏まえ、安全確認を徹底するとともに、常に「危険を予測した運転」を欠かさないようにしましょう。

危険が多い交差点を通行する際は、あらかじめ速度を控え、注意深く慎重な運転が求められます。Aは、Bがスムーズに右折できると安易に思い込んでしまい交差点に進入しました。

交差点では、「思い込み」により安全確認を怠り、重大事故が発生することがよくあります。

一旦思い込んでしまうと警戒心が無くなり、危険から意識が離れてしまいます。

ドライバーにとって、「思い込み」は要注意で、交差点ではより危険意識を強く持って、慎重な運転を心掛けましょう。

### 交差点における交通事故

当組合における平成18年度人身事故発生状況  
(11月15日現在)

総件数	交差点	総件数に占める割合
390件	178件	45.6%

死亡事故7件の内、6件が交差点で発生しています。